



はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2016
「福島写真美術館プロジェクト成果展+（プラス）新発田」
金升酒造 二號蔵ギャラリー

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、福島県会津若松市にある福島県立博物館が中核となり福島県内の大学・文化施設・NPO等との連携により実施しているアートプロジェクトです。東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故後の福島で、文化芸術による福島の復興、未来への模索を目的に2012年度から活動しています。

展開している複数のプロジェクトの一つ「福島写真美術館プロジェクト」は、震災・原発事故後いち早く福島での取材・発信を行っていた写真・映像による表現に注目し、福島における写真表現の意義を捉え直そうとするものです。

福島の自然の美しさ。人々の暮らしの尊さ。震災の爪痕。日々の中に落ちている原発事故の影。

それら福島の文化の豊かさと解決すべき問題について、写真や映像だからこそ伝えられる、問いかけられるアプローチを、本プロジェクトは試みてきました。

2012年から2016年にかけて福島を訪れ、それぞれの視点で「福島の今」を捉え、留めた写真家・作家たちの真摯な制作の成果は、ひとり福島のためのみではなく、日本の将来が抱えるであろう課題へのヒントとして、広くこの国で共有されるべきものと考えます。

その共有の場として「写真が伝える町の記憶」をコンセプトに活動が続けている写真のまちシバタ・プロジェクト実行委員会様との協働により成果展の開催いたします。

また、開催前日の10月8日（火）にはオープニングイベントトークセッション「写真家の見た福島」、会期中の10月26日（水）、11月2日（水）にはそれぞれ「写真の力と土地の記憶」「写真の記憶 シバタ・フクシマ」と題したトークイベント、11月3日（木・祝）には福島県立博物館学芸員によるギャラリートークを行います。

本活動を広く知っていただきたく、取材及び広報周知のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

事務局 〒965-0807 会津若松市城東町1-25(福島県立博物館内)

Tel 0242-28-6067 もしくは 0242-28-6000(福島県立博物館代表)

Fax 0242-28-5986

担当: 塚本、小林、馬場



「福島写真美術館プロジェクト成果展+（プラス）新発田」

【企画展会期】

平成28年10月19日（水）～11月4日（金）

【観覧時間】

（平日）13:00～17:00 （土日祝）10:00～17:00

【会場】

金升酒造 二號蔵ギャラリー（〒957-0016 新潟県新発田市豊町1-9-30）

【入場料】

無料

【主催】

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会（事務局：福島県立博物館）

【共催】

写真のまちシバタ・プロジェクト実行委員会

【協力】

敬和学園大学

【展示作品】

「Fukushima Samurai」【写真作品】

作者：高杉紀子（写真家）

重要無形民俗文化財「相馬野馬追」の騎馬武者を取材。数百年続く伝統的な祭礼への人々の思いを形にした。

「Sacrifice」【写真作品】

作者：片桐功敦（華道家）

南相馬市を拠点に東日本大震災の被災地を取材、撮影。震災後の自然環境の変化と南相馬の歴史・文化をテーマに制作。

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

事務局 〒965-0807 会津若松市城東町1-25（福島県立博物館内）

Tel 0242-28-6067 もしくは 0242-28-6000（福島県立博物館代表）

Fax 0242-28-5986

担当：塚本、小林、馬場



「未知（みち）の道」【写真作品】

作者：安田佐智種（美術家）

津波被災地を取材し、被災地に残された住宅基礎をモチーフにした作品を制作。暮らしの気配と震災の傷跡を伝える。

「水源域・福島」【写真作品・映像作品】

作者：本郷毅史（写真家）

福島を代表する河川の水源をたどり写真と映像作品を制作。福島の美しい自然の象徴である水源域の光景が、福島の今を想起させる。

「山で生きる」【写真作品】

作者：赤阪友昭（写真家）

福島県奥会津三島町の間方集落で取材、撮影。限界集落と呼ばれる山間地の暮らしの中に、自然と人との理想的な姿を見出した。

「飯舘村飯舘町の田植え踊り」【映像作品】

作者：赤間正昭（写真家）

全村避難中の飯舘中学校生徒が取り組む田植え踊り学習の様子を撮影。飯舘村の文化・歴史の豊かさ、生徒たちの成長の姿、村人の思いなどを伝える作品。

「Island in my mind」【写真作品】

作者：岩根愛（写真家）

原発事故により全村避難となった飯舘村の人々の暮らし・人生の象徴でもある自宅で、その人とその住環境すべてを被写体とする写真作品を制作。

「願う者は叶えられるか」【写真作品】

作者：土田ヒロミ（写真家）

震災と原発事故により移り変わる福島の風景を撮影。避難前の暮らしの気配や復興・除染作業がもたらししている現状を伝える。

「福島 2015」【写真作品】

作者：村越としや（写真家）

故郷でもある福島県須賀川市で撮影。変わらぬ自然の姿、震災による変化、土地に残る歴史の気配などを捉えた。

【トークイベント】

オープニングイベントトークセッション「写真家の見た福島」

講師：片桐功敦氏（華道家）、本郷毅史氏（写真家）

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

事務局 〒965-0807 会津若松市城東町 1-25(福島県立博物館内)

Tel 0242-28-6067 もしくは 0242-28-6000(福島県立博物館代表)

Fax 0242-28-5986

担当：塚本、小林、馬場



司会：川延安直（福島県立博物館学芸員／はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト事務局）

金升酒造 蔵カフェ（新潟県新発田市豊町1-9-30）

平成28年10月18日（火） 18:00～19:30 無料・申込不要

トークイベント「写真の力と土地の記憶」

講師：飯沢耕太郎（写真評論家）、村越としや（写真家）

司会：川延安直

金升酒造 蔵カフェ

平成28年10月26日（水） 19:00～20:30 無料・申込不要

トークイベント「写真の記憶 シバタ・フクシマ」

講師：港千尋（写真家／著述家）、原亜由美（写真のまちシバタ・プロジェクト実行委員会実行委員）

司会：小林めぐみ（福島県立博物館学芸員／はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト事務局）

金升酒造 蔵カフェ

平成28年11月2日（水） 19:00～20:30 無料・申込不要

【ギャラリートーク】

講師：福島県立博物館学芸員

金升酒造 二號蔵ギャラリー

平成28年11月3日（木・祝） 11:00～12:00、15:00～17:00 無料・申込不要

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト詳細はこちら→<http://hamanakaizu.jp/>

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

事務局 〒965-0807 会津若松市城東町1-25（福島県立博物館内）

Tel 0242-28-6067 もしくは 0242-28-6000（福島県立博物館代表）

Fax 0242-28-5986

担当：塚本、小林、馬場